

対話と学びの ワークショップ

おしゃべりからはじめる **コモニング**

「コモニング」
については
裏面へ!

かつてたくさんの区民が集った旧三田図書館。ここでわたしたちの新しい居場所について、一緒に話し合ってみませんか。それぞれのアプローチで「コモンズ」を立ち上げる多彩なゲストのお話と参加者同士の対話から、誰もが集える場のあり方を考えていきます。アート、福祉、教育、まちづくりなどに興味のある方、お待ちしております！

事前申込制・全5回

開催時間：各回 午後2時～午後5時

第1回 2024	10月12日(土)	乾久美子（建築家、Y-GSA教授） 「小さな風景/コモニングの実践」
第2回 2024	11月9日(土)	KOSUGE1-16 / 土谷享（美術家） 「もちつもたれつ、かかわりから生まれるアート」
第3回 2024	12月7日(土)	久保田瑛（NPO法人クリエイティブサポートレッツ） 「まちづくりを考えたら、福祉にたどりついた」
第4回 2025	1月18日(土)	桃生和成（一般社団法人Granny Rideto） 「イバシヨ、イバシヨ、ワルイバシヨ～つくらない場づくり」
第5回 2025	2月8日(土)	ふりかえりのワークショップ

会場：旧三田図書館

(〒108-0014 東京都港区芝5丁目28-4)

定員：30名程度

対象：15歳以上の人

(区内在住、在勤、在学者優先で抽選)

◇ 一時保育あり（4ヵ月～就学前、5名程度。要申込。）

申込方法：下記QRコードの申込フォームからお申込みください。
詳細はこちら(<https://artscommons.asia>)

- ※ 原則として、全日程参加可能な方のご応募お願いいたします。
- ※ 応募者多数の場合は、抽選で参加者を決定いたします。
- ※ ワークショップへのご参加可否は10/4(金)までにメールにてお知らせします。

募集期間：9月2日(月)～9月30日(月)

問合せ先：NPO法人 芸術公社

(サイトURL) <https://artscommons.asia> (電話) 080-3936-6676 (祝日を除く 月～金曜 午前10時～午後4時)

(メール) artscommons.tokyo.inquiry@gmail.com

主催：港区

申込フォーム



今年度のテーマ「コモニング」とは？

「コモニング」とは、コモンズ(=人々の共有地)を立ち上げ、そこに集まる人たちの関係性を生み出していく行為のことです。今年度はこの「コモニング」をテーマに、みなと芸術センターの令和9年度の開館に向けた様々なプレ事業を始動します。

このワークショップでのコモニング

コモニング実践のひとつであるこのワークショップは、講師によるレクチャーと参加者同士の対話の2部構成で行われます。前半のレクチャーでは、個性的なコモンズを立ち上げ、育てて来た4名を各回にお招きして(最終回のみ講師なし)、実例をもとにお話をさせていただきます。

そして、後半の対話では、みなさんひとりひとりの当事者目線で居場所像を思い描いていただきながら、それを共有して深めていきます。以上を通して、様々な属性の人が居ることができるコモンズのあり方を浮かび上がらせていきたいと思えます。

また、会場の旧三田図書館では、図書館が担っていた「居場所」としての役割を引き継ぎ、場をひらいていく実践として、「みなとコモンズ」を立ち上げます。

さまざまな人が多様な時間を過ごせる場所にしていく予定ですので、ぜひワークショップの前後にもご活用ください！(みなとコモンズ開放日程は、芸術公社Webサイト、SNS等からご確認ください。)

◇今回の講師・ファシリテーターのみなさん

乾久美子 (いぬい・くみこ)

1969年大阪府生まれ。1992年東京藝術大学美術学部建築科卒業、1996年イエール大学大学院建築学部修了。1996～2000年青木淳建築計画事務所勤務を経て、2000年乾久美子建築設計事務所を設立。2000～2001年東京藝術大学美術学部建築科常勤助手、2011～2016年東京藝術大学美術学部建築科准教授。2016年より横浜国立大学都市イノベーション学府・研究室 建築都市デザインコース(Y-GSA) 教授。主な作品に、「延岡駅周辺整備プロジェクト 延岡市駅前複合施設 エンクロス」(2020年日本建築学会賞(作品)、2020年グッドデザイン金賞等)、「宮島口旅客ターミナル」2021年第13回JIA中国建築大賞2021一般建築部門奨励賞)、京都市立芸術大学・京都市立美術工芸高等学校*等。*は共同設計の作品。



KOSUGE1-16 / 土谷享 (こすげ・いちのじゅうろく / つちや・たかし)

美術家ユニットKOSUGE1-16として2001年より活動する。作品を通じて「もちつもたれつ」という関係をつくりながらハビトゥスの形骸化に注目し、生き生きとした形で再起動させようと試みる。近年の主な活動に「どんどこ！巨大紙相撲」(2006年～、全国各地)、しらんことだらけ博物館(2021～2023年、松山ブンカ・ラボ)、Playmakers Taipei～PON-TAN Islands～(2022年、台北パフォーミングアーツセンター)など。主な受賞歴に「2008年、第11回 岡本太郎賞」など。



久保田瑛 (くぼた・あき)

認定NPO法人クリエイティブサポートレッツスタッフ

1992年浜松市生まれ。重度の知的障害がある弟「たけし」の姉として認定NPO法人クリエイティブサポートレッツの活動に長年関わる。2017年慶應義塾大学総合政策学部卒業後、全国を巡りながら障害者の表現をリサーチ。2018年同法人参画、事業担当者として、2020年から福祉とまちづくりの担い手、約30団体が連携し対話を重ねる「浜松ちまた会議」を立ち上げ、生活や暮らしに根ざした浜松中心部のまちづくり事業を展開。2022年には浜松中心市街地に私設私営の公民館「ちまた公民館」を開所し、障害の有無や年齢に関わらず誰もが利用できる拠点の運営を開始し新しいコミュニティやまちのあり方を模索している。



桃生和成 (ものう・かずしげ)

一般社団法人Granny Rideto 代表理事

1982年仙台市生まれ。宮城大学大学院事業構想学科空間デザイン領域博士前期課程修了。2008年、(特活)せんだい・みやぎNPOセンター入職。多賀城市市民活動サポートセンター長を務めたのち、2016年退職。(一社)Granny Ridetoを立ち上げ。利府町まち・ひと・しごと創造ステーション tsumikiディレクター(2016年～)、シェア型複合施設THE6ディレクター(2016年～)、東北文化学園大学非常勤講師(2018年～)などを務める。『復興から学ぶ市民参加型のまちづくりー中間支援とネットワークングー』(創成社・2018年)共著。『つくる〈公共〉50のコンセプト』(岩波書店・2023年)共著など。つれづれ団、衣食住ユニットすまい、cafedit spaceなど遊び、実験、仕事を行ったり来たり。



ファシリテーター

戸館正史 (とだて・まさふみ)

専門は文化政策、アートマネジメント。公共ホール、美術館、中間支援機関などでの勤務を経て2018年から2023年3月まで愛媛大学社会共創学部寄附講座「松山ブンカ・ラボ」ディレクター。みなと芸術センター研究機能専門参与、港区文化芸術活動サポート事業調査員、小金井市芸術文化振興計画推進委員会委員長、都民芸術フェスティバル(音楽部門)外部評価員などを務める。日本文化政策学会会員。共著に『芸術と環境』(論創社、2012)。

